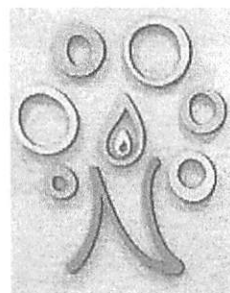


ら、協会のマスコットが「あかりちゃん」ですね。未だに誤解や偏見が多いこの病気のことを多くの人に知ってほしい、患者さんの人生に灯りを！という先生の思いは、病院のロゴに灯りが入っていることから伝わってきます。もう一つ、先生がこのロゴで表現したかったのは「森」（当事者や当事者と関わる人が力を合わせていった先にできた偏見のない社会）のイメージだったのだそうです。



たくさんのお木が集まって森ができるように、てんかんのある人や、彼らを取り巻くすべての人の思いやパワーの結晶が森なのです。樹木には永遠の命があります。冬に枯れても、春になればまた新しい息吹を始める、そんな樹木のように、「この病気のことを知ってほしい、社会を変えたいという多くの人の思いのバトンが次世代へと受け継がれていくように」、という先生の願いが、このロゴに凝縮されているように思えてなりません。

風薫る爽やかな五月にオープンしたこのクリニックでの「森」作りはスタートしたばかり。多くの患者さんが先生と出会い、暗闇から脱し、日なたへの第一歩を踏み出すことができますように。

## おまけの話

久保田先生に初めてお会いしたのは、入会した平成15年の新潟大会でした。大会の少し前に、先生はEテレの「福祉ネットワーク」にご出演され、その番組がきっかけで、この病気への関心が高まり、協会への問い合わせが一気に増えたそうで、まさに「時の人」でいらっしゃったのでした。テレビで拝見して素敵なお先生だと思っていたのですが、お会いできるとは！と感激でした。「颯爽」という言葉がぴったりの方だなあと思いました。

二度目にお会いしたのは、栃木県に来た平成17年の夏の基礎講座でした。前年に自分が担当したクラスに、てんかんのある生徒がいたことから、教員としてこの病気のことを知りたいという思いが芽生えたのです。てんかんをもって生きている生徒を支援するための勉強をしたい、そんな思いで初めて参加した基礎講座での再会でした。先生は、二日目の最終講義を担当されました。

世話人として初めて参加した昨年の三重大会では、心温まる励ましの言葉をいただき、本当に嬉しかったです。

今年の春は、新型コロナの感染の心配から、多くの大学が入学式を取りやめたため、生徒が新たなスタートを切ったという実感が薄かったのですが、久保田先生の新たなスタートを皆さんと共に祝いできて、とても幸せな気分が家路についた私でした。

(栃木県支部世話人 未輝子)